

SDGs未来都市計画 取組概要

愛知県幸田町（2024年度選定）

| | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 地域の特徴と課題及び目標 | <p>本町は、愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市である名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲郡市などと接している。町域の大部分は洪積台地であり、中央部には、町名の由来となった広田川が遠望嶺山の源流から北に流れている他、東南にかけて遠望嶺山（標高439メートル）を含む山地、南部の西尾市、蒲郡市との境界には三ヶ根山（標高325.7メートル）を中心とした山地、西部は標高100～350メートルの山地があり、三方を山に囲まれた自然豊かな地域である。</p> <p>また、町の中央南北に縦断している東海旅客鉄道株式会社の相見駅、幸田駅、三ヶ根駅が設置されている他、南北には国道248号線、東西には国道23号線と23号バイパス（名豊道路）が走っており、交通アクセスに恵まれた状況となっている。</p> | |  1. 持続可能な開発目標 2. 幸福をぜりに 3. すべての人に健康と福祉を 4. 知識の高い世界を 7. みんなでつながる 8. 繁栄がいいもの創造 11. 住み続けられるまちづくり 13. 環境変動に具体的な対策を 15. 緑のまち幸田 17. パートナーシップで目標達成 |
| 3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む) | <p>企業誘致や駅周辺の区画整理等により本町の人口は増加している一方、これまで本町が大切にしてきたコミュニティや自然環境への係わりの希薄化といった地域課題が顕在化しているところである。本町の更なる発展には、地域経済の育成は勿論のこと、町村合併70周年となる節目の年となる機会を活かし、成長の基盤である地域の活力や魅力の向上に向けて、本町がこれまで大切にしてきた「コミュニティの力」や「自然環境との調和」を再構築することにより持続可能なまちづくりを展開していく。</p> | | |
| 4. 自治体SDGs推進等に向けた取組 【特に注力する先導的取組】 市街地の周囲に広がる田園風景とともに四季の変化を感じさせてくれる里山の永続的な保全と、自然との共生を通じた心の豊かさやコミュニティのつながりが両立した緑住文化都市を実現していくことにより、健康増進、まちの活力や地域の魅力を向上させ、「しごとがひとを呼び、ひとがしごとを呼び込む」持続的な成長を目指す。 <ul style="list-style-type: none">●持続可能な都市の実現に向けた3つの視点 ・経済・地元名産品の普及拡大・森林を活用した地域活力の増進 ・社会・地域交流拠点の整備・サステナブルな食・農の実現 ・自然との共生を通じたWell-Beingの推進 ・環境・森林空間の整備・営農型太陽光発電の導入促進●官民連携の仕組み（ステークホルダーとの連携） SDGsの推進に向けて協力し、パートナー登録制度を創設し、この制度を基にこうたSDGsプラットフォームを設立、各主体が相互に連携、課題の解決を図る「場」とする。 5. 取組推進の工夫 SDGsの達成に向けては、行政単独での取組には限界があり、多様なステークホルダーとの協同が不可欠なため様々な民間事業者等を、事業をともに推進していくためのステークホルダーとして位置付けている。 | | | 6. 取組成果 【2024年度におけるSDGs推進の主な取組】 幸田町森林サービス産業推進協議会設立 ・幸田町森林サービス産業基本計画の策定 ・記念植樹祭の開催 SDGs A I C H I E X P Oにブース出展 ・パネル展示、啓発品 ・特産物の配布 ・スタンプラリーの実施 SDGsシンポジウム開催（181人） ・基調講演 ・パネルディスカッション SDGsマルシェ開催（来場者約2,500人） ・J R 東海主催の「さわやかウォーキングに合わせ開催」 ・企業ブースに町内外の企業6社が出展 こうたSDGsプラットフォーム設立 ・パートナー登録数（3企業） |
| 8. 他地域への展開状況（普及効果） | 本町の取組は、人口は増加しているものの、地域の歴史・文化資源の継承がうまく行われず、住民同士の交流が希薄化している課題に対し、人と地域のつながりを育て、活力ある地域社会を目指すため、SDGs特設サイトにて活動の普及啓発及びパートナーの募集をおこなっている。 | | |